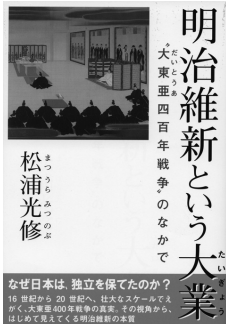


明治維新という大業—“大東亜四百年戦争”のなかで

松浦光修著

維新の「成功」体験
受け継ぐための一冊



明治維新という大業
大東亜四百年戦争のなかで
松浦光修

なぜ日本は、独立を保てたのか？
16世紀から20世紀へ、壮大なスケールで大東亜の歴史を論じる著者の視点から、はじめて考え尽くす明治維新の真実。

か？」と題して、維新を否定する背後に、特定の政治勢力があることを具体的に暴いてゐる。

第二章は、「豊臣秀吉と大東亜四百年戦争」と題して、明治維新は、ヨーロッパのアジア進出と豊臣秀吉の時代にその源流があるとする歴史観を提唱してゐる。

第三章は、「尊皇」とは何か？「攘夷」とは何か？」と題して、なぜ日本だけが幕末の欧米列強の侵略に抗して独立を守ることができたのか、その思想的な背景を解き明かしてゐる。

第四章は、「五箇条の御誓文」への道」と題して、近代日本の国是となった五箇条の御誓文の成立過程について詳しい考察がなされてゐる。独立を守るためには、日本を経済的に豊かに強くする富国強兵政策こそが重要であり、そのためには言論の自由が大事であることなど、現在の日本にも必要な国策が幕末の時点に論じられてゐることに深い

感銘を覚える。

第五章は、「五箇条の御誓文」の発布」と題して、幕末の倒幕運動の中で国是がどのやうに定められたのか、歴史的な経緯とその政治力学が論じられてゐる。そして終章は、「ハワイ王国と東郷平八郎と大東亜戦争」と題して、アメリカの太平洋進出と大東亜戦争に至った経緯について論じてゐる。

新

今年には明治維新百五十年といふことで、幕末明治維新に対する関心が昂つてゐる。書店にも関連本が並んでゐるが、面妖なのは、明治維新を否定する本がずらりと並んでゐることだ。

歴史学界の中には、坂本竜馬や吉田松陰ら維新の功労者たちを教科書から削除すべきだと提唱するグループもあり、文科省もその動きに同調しかけた。世論の反撥を受けて国会議員が国会で問題にしなければ、坂本竜馬らは教科書から削除されてゐたと思はれる。かうした不可解な文科省と歴史学会の動きに対して敢然と異を唱へて新刊を上梓されたのが、皇學館大学の松浦教授だ。

新刊の『明治維新という大業』は、六章立てになつてゐる。

第一章は、『維新の大業』を消そうとしているのは誰

〈本体1900円、明成社刊。ブックス鎮守の杜取扱書籍〉(評論家・江崎道朗)